

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	代表理事講演
タイトル	超高齢化社会に向けて日本在宅医学会が果たす役割
日時	平成 25 年 3 月 30 日 14 : 00～14 : 30
会場	メインホール
演者	日本在宅医学会 代表理事・前田憲志先生
企画趣旨	<p>「地域包括ケア方式」を発展させるには「在宅医療」が中心となり推進する必要がある、本年が在宅医療元年と位置づけられた今、在宅医療は特殊な医療分野ではなく、医療福祉の中で遍く行われねばならない普遍的分野となった訳です。学会としてもこの要請を受け、普及啓発ならびに知識技術の均てん化の急速な推進が必要であります。リーダーの養成には「認定専門医」の養成の加速化が必要であり、面展開のためには、開業されている医師や若手医師への在宅医療の研修、ならびに個々の医師の負担を軽減し、かつ効果的な成果を挙げるための支援体制の構築が急務であります。負担軽減支援策としては「機能強化型在宅医療支援診療所等の構築支援」や拠点事業で提案されている「在宅医療支援アセスメント入院システム制度」の充実ならびに普及に力を入れて行く必要があります。この制度は病院等と比べれば相対的に劣悪な在宅での診療環境を <b>time share</b> するものであり、かつ、在宅診療の基盤統一が可能となり、「在宅医療データベース構築」の基盤となり得ると共に在宅医療に従事する医療介護従事者の不安を解消し、負担を大きく軽減する効果をもたらします。「拡大に走りながら、充実に努める」ためには走りながら得られた診療や連携構築、社会との相互関係をデータベース化し解析評価を速やかに医療現場に還元し、軌道修正・姿勢制御に役立て、動的に推進を図ることが、最も効率的かつ経済的な方略であると考えます。この理念の具体化のため、本学会として、「支部組織」の充実、各地域の特性に適した地域包括ケアに向けた活動、各地域毎の「アセスメント入院制度」を基盤にし、各地域の社会条件をも盛り込んだデータベースの作成、さらに、各地域との連携による全国規模のデータベース作成に向けた活動を開始する必要があります。</p> <p>また、本学会の活動や各地で活発に行われている研修活動等の内容を本学会 Home Page の「学習ページ（仮称）」に公開し、時空を超えて学習を可能とし、学習の促進、知識、技術の均てん化を図るべく計画を進めてまいります。さらに、臨床に役立つ「研究の推進」に力を入れる必要があります。医療福祉の新分野として、社会生活とリンクした新たな視点からの研究の推進と成果の医療現場への速やかな還元が大きな課題であります。</p> <p>医療現場で実効の上がる在宅医療の治療効果を高める共通の基本課題として、嚥下機能、栄養摂取指標、体力指標（筋肉量の定量化）、エネルギー産生量、在宅リハビリ、認知症周辺症状の改善、生活環境の改善効果の評価などの課題が在宅医療の基盤整備の点からも重要と考えています。また、介護者にか</p>

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

かる負担を軽減する研究も在宅医療普及の重要な課題であり、地域の特性に合わせた検討が必要であります。さらに、人材育成・研究推進には大学の参加が不可欠であり、各大学に在宅医療に関する教育、研究に関する講座等の設置を強力に働きかけたいと存じます。地域包括ケアを推進するには未開拓の課題が多く、多数の多方面の方々のご参加ご協力をお願い申し上げます。